

## JD Farag 牧師 中東アップデート 2018年4月8日公開

## シリア化学兵器攻撃

私達は、日曜の朝は聖書の学びも行っていて、現在エペソ人への手紙を、書ごと節ごとに教えていますが、今日は、全ての時間を中东の預言アップデートにあてる必要があると感じたので、いつもはエペソ人への手紙を教えるから行いますが、今日は、エペソ人への手紙は教えません。

その理由はいくつもありますが、主な理由は、今朝3時に起きたのです。いつも日曜日はその時間に起きます。そこで今朝も早く起きると、オンラインメンバーで、ニューヨークの Fox ニュースに務める、Kelly McGuire さんからメールが来ていて、そこに書かれていた緊急速報に驚きました。シリアが、ダマスカス近郊で、化学兵器による攻撃を行いました。そこで、エペソ人への手紙の学びを差し控えて、この事の重要性についてお話ししよう決めました。

最初に言っておきたいのですが、私を知っている方なら、もうお分かりでしょうが、私はいつも、センセーショナルな言い方や扇動的にならないように、大変気を付けています。それから、出来るだけ…「冷静に」と言おうと思ったのですが、私はあまり冷静な人間ではなくて、それは事実ではありません。ともかく、今回起こった事、また現在起こっている事は、まさにゲームチェンジャー（流れを変える）というだけでは、言い足りません。今日は、これらすべてを、まとめてお伝えしようと思うので、どうかお付き合いいただければと思います。実は、この化学兵器攻撃の前に、この数日間、先週の間だけで、どれほど多くの事が起こったのかをお伝えする為に、昨日 8 時間ほど時間をかけて、預言アップデートの準備をしたのです。そこで、今日私は、主要な3つの預言を目撃している、という事について、言及していきたいと思えます。最近毎週のようにこれについて言及しているようにも思いますが、良い意味で、です。今日は、この3つの預言が、“非常に迅速に”起こり始めている事について、言及したいと思えます。私は今、目的があって、この言葉を使いました。これは、聖書の最後の書の最後の章で、イエスが実際に、2度言われた言葉です。黙示録 22 章で、彼は2度言われました。

“「見よ。私はすぐに来る。」” (黙示録 22:7, 12)

さて、新約聖書の原語であるギリシャ語でこれは、「タコス」。英語の「タコメーター」（回転速度計）という言葉は、ここから来ています。これを再度お伝えした理由は、イエスは、次のように言っておられるからです。

「見よ。私は、ものごとの加速度が増してきた時に来る。」「ものごとが、スピードアップしてきた時に」「ものごとが、どんどん早く起こり始めた時に」多分これは、正しい英語ではないでしょうが。物事は、激しさを増しているだけでなく、頻度もどんどん増しています。

そこで今日は、この3つの預言に、フォーカスしたいと思います。

**①イザヤ書 17 : 1**

これは、シリアのダマスカスが、完全に破壊されて廃墟になる、という預言です。非常に詳細に告げられています。イザヤ 17 : 1 と、それからエレミヤ書 49 章にも、シリアのダマスカスについて、書かれています。

**②エゼキエル 38 章**

これは良く知られているものです。これは、国々が同盟を組んで、イスラエルに攻撃を仕掛けて来る、という預言で、略奪するのが、その目的です。つまり、攻撃される時には、イスラエルは非常に繁栄しているという事を意味します。そして現在、確実にそうであるのが分かります。では、この同盟国を指揮するのは誰なのか？それは他でもないロシア、イラン、トルコです。私は彼らを“ビック3”と呼んでいます、彼らと共に他の国も味方に付きます。そして、ロシアとイランの指揮の元、彼らはイスラエルに攻撃をしかけます。時間の関係で、そこまでお話しませんが、エゼキエル 38 章の預言の、実に詳細な記述に注目して頂きたいのです。それは 13 節に書かれていて、古代の名前シェバとデダン、つまりサウジアラビアと、タルシュシュとその若い獅子達が、この同盟国によるイスラエルへの攻撃に対して、抗議します。それに関して、後程お話しします。今はとりあえず、それだけ覚えておいてください。これは現代のサウジアラビアの役割に関する詳細です。それによれば、この攻撃の時、何らかの形で、誰が想像したでしょうか、サウジアラビアとイスラエルが同盟のようなものを組

んでいて、良好な関係にあるのです。サウジアラビアとイスラエルですよ？それが13節です。ちょっと違う言い方をしてみましょう。5年前には絶対に、3年前でも、私がここに立って、13節の記述について今日行っているように、現在形で話す事は出来なかったでしょう。今こうして話している内にも、同時進行で、13節が成就されようとしているのです。2500年以上前に、預言者エゼキエルによって「こうなる」と語られた、まさにその通りに、です。これが2番目の預言です。

### ③ゼカリヤ書12章

具体的には1-3節です。これは、全世界がエルサレムに執着し、よろめく、という預言です。神ご自身が、そのようにされます。さらに具体的に言えば、そのエルサレムへの執着が、エルサレム分断に関係していて、今日私達が耳にしている、いわゆる「2国解決案」の名の下に行われるのです。ユダヤ人と、いわゆる“パレスチナ人”とが、隣り合って、“平和に安全に”共存する、というものです。これもまた、非常に驚愕の預言で、使徒パウロが、第一テサロニケ人への手紙5:3に次のように書いています。

“人々が、『平和だ。安全だ。』と言っているそのような時に、突如として滅びが彼らに襲いかかります。”  
(第一テサロニケ5:3)

訳によって、ここでは「平和だ。安心だ。」と訳されていますが、この2つの言葉はギリシャ語では、「平和だ。安全だ。」です。そこで使徒パウロが言っているのは、人々が具体的にこの2つの言葉、「平和だ。安全だ。」と言っているそのような時に、突如として滅びが“彼らに”襲いかかります。“私達に”ではありません。

“ちょうど妊婦に、産みの苦しみが臨むようなもので、(彼らは)それを逃れることは決してできません。”

“私達”ではありません。そして非常に興味深いのが、彼の救い主と同じように、彼も、この「平和だ。安全だ。」と、突如の滅びを、妊婦の産みの苦しみに例えているのです。ではなぜ、それが、そんなに重要なのか？それは、産みの痛みというのは、頻度と激しさを増すのです。そしてイエスは、彼の来臨を、出産に例えられました。産みの痛みがあるからです。ですから、私達が現在目にしているのは、まさに「そうなる」と私達に伝えられていた通りなのです。それから、これらの預言が、まさに告げられた通りに成就しつつあるのを、私達は目撃している、と私は心底信じています。もし今日、ここに居る方、もしくはインターネットか何かで、これをご覧になっている方の中に、非常に落胆している人が居るなら、私も、使徒パウロがテサロニケの人達に言ったのと同じ言葉で、慰めたいと思います。

“この言葉をもって、互いに慰め合いなさい。” (第一テサロニケ4:18)

どの言葉ですか？次の言葉です。

ラッパの響きのうちに、生き残っている私達が、たちまち一挙にあげられ、ここから大脱出します。しかもそれは、突如起こります。

“生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります。” (第一テサロニケ4:17)

「先生、どういう意味ですか？」「彼らを襲う突如の滅びと、携挙が、同時に起こると言う事ですか？彼らは、逃げられない時に？」

さて。これに関して、断定的にならないように気を付けていますが、それでも、私には、これがどんどん確信に変わって来ています。“もし”ではなく、“その時”。“彼ら”の上に突如の滅びが襲った“時には”、“彼ら”は逃れられませんが、これには反対があります。それは、“私達”です。“私達”は“彼ら”ではありません。私達は、突如の滅びが“彼ら”を襲う時に、生き残っている“私達”です。私達は逃れます。彼らは逃れられませんが、私達は、“私達”です。ものすごく深いですが、要は、「“私達”になりなさい。」という事です。これが全てのポイントですから。「“私達”になりなさい。」

さて、今日は、これらの事をお伝えして、それから、これらが今日ここに居る私達の一人ひとりに、どういった意味があるのかを、お話ししたいと思います。現在、中東で起こっている事、また、間もなく起ころうとしている事の重要性は、どれほど強調しても足りないと思っています。まずは、この水曜日（4/4）の Haaretz の記事から始めましょう。

——トルコの大統領レジェップ・タイイップ・エルドアンと、ウラジミール・プーチン大統領と、イランの大統領ハサン・ロウハーニーが、集まったのは今回が2度目ですが、シリアの行く末について、首脳会議を行った。

皆さん、覚えていらっしゃるでしょうか？この指導者達が、初めて集まったのは、ロシアのソチで、去年の11月でした。このエゼキエル 38 章の諸国が、まさに書かれている通りに同盟を組んだのは、あれが史上初めてです。また、彼らを近づけたのは、シリアの状況でした。そしてこの3か国全員が、現在こうして話している間にも、シリア国内に居ます。非常に興味深いのは、これまでは、トルコは交渉のあちら側に居て、その反対側に、バッシヤール・アサドが、ロシア、イランと共に居たのです。

そこで、金曜日（4/6）の The Jerusalem Post が、トルコ、イラン、ロシアの会談の副産物について、報じています。その中で、彼らは告げています。

——成功に終わった、トルコ、ロシア、イランの大統領による、トルコでの会談後、イラン政権のメディアが自慢している。しかし、シリアの行く末について話し合うための会談で、イランだけが勝者だったわけではない。ロシアとトルコの両方もが、自分たちはシリアでの自分たちの目的をアメリカの予算を使って、達成しつつあると感じている。問題は、現在、アメリカは、シリアに対して、明確な計画を持っておらず、対戦相手は、待っているように見える点だ。これらの議論から、アメリカが除外されているこの1年半の間に、ものごとがどれほど進んだかを、最近の首脳会議が物語っている。これが、ワシントンにとって一歩後退になるようには見えず、最近の首脳会議が、アメリカの政策に影響を及ぼすことを意味している。（よく聞いてください）また、サウジアラビアや、イスラエルといったアメリカの同盟国が、シリアの将来について、発言力が少なくなるであろう事を意味している。——

良いですか？皆さん、これから私が言う事をよく考えてみてください。これが一致…、もっと言えば、御言葉に書かれている筋書きと、ぴったり合うのです。その筋書きには、かつては世界で最も偉大な国であった、アメリカ合衆国が出て来ません。これに反対意見があることも理解しています。それに関して、私の立ち位置はこうです。「意見が反対である、という事で快く同意しよう。」ともかく、私には聖書預言の中に、アメリカの存在が見えません。今の時点では確実に、アメリカ合衆国は中東において、目立った存在ではありません。だから、これにぴったり合うのです。そして今や、形を成し始めています。今、中東を支配しているのは、アメリカではありませんよ？バラク・フセイン・オバマの8年間で、アメリカ合衆国の運命を基本的には決定づけてしまいましたから。かつては、中東、特にシリアで、最も力を持っていた国です。今は誰が支配していますか？バッシヤール・アル・アサドではありませんよ？ウラジミール・プーチンです。そして彼と共にイラン。そして彼らと共にトルコ。これがまさに、私達に告げられていた通りです。アメリカ合衆国は、中にはエゼキエル 38:13 に書かれている、「シェバとデダン、タルシュシュとその若い獅子たち」の若い獅子たちだ、とある人達が信じ、示唆しています。これに関して、断定的には言えませんよ？ただ、それがぴったり合うのです。これが、アメリカ合衆国が出て来ない事に、ぴったり一致します。人によっては、タルシュシュはイギリスで、若い獅子がアメリカだと信じています。そしてそうなれば、13節の具体的な詳細は、サウジアラビア、イギリス、そしてアメリカは、この同盟国による攻撃に対して、ただ抗議するだけである事を告げています。彼らは北から、すなわちシリアから攻め込んで来ます。だから私は、シリアのダマスカスに関するイザヤ書 17:1 が、エゼキエル 38 章が成就するきっかけになると信じているのです。

ではなぜ、それが重要なのか？それは、シリアのダマスカスに関する、イザヤ書 17 章が成就しつつあるのを、我々は今、目撃しているからです。皆さん、理解しておいて下さい。それは非常に迅速に起こります。そうではないと信じているのです。これらの預言が続けて起こる、と考えるのが理論的に思えます。イザヤ書 17 章がまず

起こり、その直後にシリアからイスラエルに侵略してくる。エゼキエル 38 章です。そしてそれから、エルサレムに関するゼカリヤ 12 章といった預言が起こります。あと、ダニエル 9:27 も加えておきますが、これはまた別の機会にお話するとして、今日は少しだけ説明しておきます。これは、反キリストに関する預言で、力づくで強制的に、和平協議を 7 年間結ばせませす。そして私も含めて、多くが信じているのは、これによって 7 年の大患難が始まる、という事です。それから当然、教会の携挙は、その前に起こらなければなりません。MUST です。これに関しては、断定しておきます。それは、7 年の大患難の前に起こらなければなりません。

ダニエル 9:27 がさらに告げているのは、その中間の 3 年半の時点で、反キリストは、新しく再建された神殿で、（私はこれも協議の一部だと思っていますが）自身を神として仕立て上げ、彼を拝むように命じます。そしてその時にユダヤ人は、これは彼らが思っていたメシアではない、と気づくのです。これは反キリスト、反メシアだと。そこで彼らはエルサレムを逃れます。私は、彼らはペトラに行くのだと信じています。現在のヨルダンです。そこで 7 年の大患難の後半 3 年半を、神が彼らを守られます。そして、7 年の患難の終わりに、彼らは主を呼び求め、パウロがローマ書に書いた通り、イスラエルの全家が救われます。

ちなみに、それが大患難の目的です。その目的は、ユダヤ人国家の救いで、ヤコブの苦難の時です。教会ではなく。また、ダニエルの“70 週目”です。“半週”ではなく。“ダニエルの 3 日半”でもなく。そうでなく、これはヤコブ、通称イスラエルの苦難の時。これが、大患難の全目的です。ユダヤ人国家全体の救いです。ですから、携挙でイエスは私達の為に来られ、再臨では、イエスは私達、数えきれないほどの人数を従えて共に来られる、と言われていています。これは、『預言基礎講座』ですよ。ともかく、全てはそこに向かっています。

それから、これもまた別の機会にするべき話題かもしれませんが、ただ、トランプ大統領についてお話しておきたい事があります。彼は、典型的な交渉の名人ですが、その典型的な交渉の名人であるのと、呼応しているのが、彼の「究極の協議」への探求です。また彼は、究極のビルダー（建築家）です。今日は時間がありませんが、ある記事によれば、イスラエルのラビ達は、ドナルド・トランプが第三神殿を建てると信じているそうです。「まあ、先生！ドナルド・トランプが反キリストだ、というのですか？」違います。彼であるはずがありません。私がそう思う理由は、次の通りです。ダニエル 9:27 が告げているのは、すでに協議は出来上がっていて、ただ、それを強要される必要があるのです。反キリストが強要するのは、この、すでに存在していながら、今までに強要された事のない協議です。そして、その時に 7 年の大患難が始まります。つまり？その時が来れば、分かります。

ところでもう一つ。これもまた、一緒に考えてみてください。トランプは、ネタニヤフを政治的に大きく引き上げたと思いませんか？彼には非常に必要な事でしたが、宣言と、さらにはユダヤ人国家再誕 70 周年記念日に、アメリカの大使館のエルサレムへ移動を促進したことによって、1948 年 5 月 14 日にイスラエルが再誕して、2018 年 5 月 14 日で 70 周年です。トランプが、これをレバレッジとして利用するなんて、一瞬たりとも考えないでくださいよ。その理由をご説明します。私は、彼はネタニヤフをすっかり餌付けしたと思います。なぜなら、今、彼はトランプに注目していますから。基本的には、トランプが彼を政治的大惨事から救いましたからね。だから今は、彼がネタニヤフを餌付けしています。

では、反対側の、自称パレスチナ人を見てみましょう。マフムード・アッバースですが、彼の健康状態が非常に良くないという噂です。すでに余命宣告がされているという人もいます。もし彼がこの図から外れるなら、これもまた、ゲームチャンジャーです。交渉の時、パレスチナ側で、マフムード・アッバースの後に誰が入りますか？皆さん、ご存知である事を願いますが、トランプは自称パレスチナへの援助金を打ち切って、一番痛い所を直撃しています。ですから、彼は、違う形で彼らの事も、交渉の場に向かわせているのです。繰り返しますが、彼の「究極の協議」への探求は、彼がそう言ったのです。「究極の協議」というのは、彼の言葉です。交渉の名人による、究極の協議、それはこれまでに誰にもできなかった、ユダヤ人とパレスチナ人が共に和平協議で、それが彼にとっての究極の協議です。

彼は、それを達成するためには、どんなことでも行いますよ。そこで、彼は何をしたのか？彼は、ネタニヤフに、交渉のこちら側に着くようにせがみ、それから彼は、パレスチナ人を、適切に言えば、強制的に、資金援助を打ち切る事によって、交渉の場につかせませす。繰り返しますが、彼らを餌付けるのかも知れません。そして、どうなるか？可能性として？言うておきますが、これは全て憶測です。非常に慎重に言うべきですし、これに関しては、いかなる方向にも決して断定はしません。ただ、ある時点で、協議が成立するよう見えます。具体的

には、ゼカリヤ 12 章の預言です。なぜかと言えば、彼らはエルサレムを分断しようとしていて、神はこう言っておられます。ちなみに、神が所有者として、文字通りご自身の御名を置かれた都です。

「もし、あなた方がエルサレムを分断しようとするなら、あなた方が、そこを分断するなら、私があなたがたを分断する。」

以前にも言いましたが、もう一度言う価値はあるかもしれません。私は、アメリカ合衆国が、この国の歴史上これまでになかったほどに分断しているのは、これが理由ではないかと思うのです。アメリカは今も、これまでも、エルサレムを分断しようとしてきた主要人物ではなかったですか？今の大統領や、前大統領の事だけを言っているのではなく、これまでの大統領全員です。アメリカは、第一線に立って、イスラエルに国土を手放すように迫り、エルサレムを分断しようとしてきました。全てが、自称パレスチナ国の名の下に、です。私が、この 2 国解決案をどのように見ているかは、皆さんもうご存知でしょうが、これは、ヒトラーの「Final Solution／ユダヤ人問題最終的解決」の再梱包です。なぜなら、彼らはイスラエルとの国家など求めているのではありません。彼らは、イスラエルと隣り合って暮らしたくありません。彼らはイスラエルの破滅を求めているのです。そして、それはまさに「ユダヤ人問題の最終的解決」ユダヤ人の根絶、破滅です。

では、前に進みましょう。Newsweek の火曜日 (4/3) の記事は、

——ロシア、トルコ、イランがシリアの将来について、アメリカ抜きで計画——

アメリカおよび、他の西側諸国の存在が、この会談から著しく欠如している事を記載しています。私は記事を読んでいるのですよ。記事は告げています。

——あの地域の 3 大国（イラン、ロシア、トルコ）で、意見が一致しているのは、彼らがまた強調しようとしたのは、（ここ、よく聞いてください）この地域に関するアメリカの政策が、いかに不適切、取るに足らないものになったか、という事だ。——

非常に興味深いのは、この会談の後の、トランプの驚愕の発表です。

——「アメリカを、シリアから撤退させたい。」——

これ、ご存知でしたか？先週のことです。この Times of Israel の報道 (4/5) によると、

——水曜日 (4/4)、ベニヤミン・ネタニヤフ首相と、アメリカの大統領ドナルド・トランプの間での電話で、アメリカのシリア撤退計画に、イスラエルが反対し、緊張感が高まった。それに加えて、アメリカの政府関係者が水曜日に発言。「トランプは、全部隊を 6 か月以内に撤退させようとしている。」——

ちょっと待ってください。トランプは自分の考えを人に知らせるのは、好きではなかったはずですよ？スケジュールを設定するのは、確実に好きではなかったはずですよ。こんな事を言って申し訳ないですが、これはどこか“オバマ”っぽくないですか？違いますか？私には、非常に奇妙に見えるのです。彼が“突如”、私はわざとこの言葉を使っていますが、彼が突如、驚愕の発言をしたのです。アメリカ兵“全員”を？シリアから撤退させたい？しかも、それを 6 か月以内に行う？記事は続けて伝えています。

——これに対して、国（イスラエル）の主要治安当局と、味方国が狼狽した。——

さらに興味深いのです。記事を引用しますので、よく聞いてください。信じられませんよ。The Times によれば、——トランプは、何が何でもイランをシリアから追い出したい“サウジアラビア”に、シリアの再構築と安定に向けて、今後はアメリカが負担せずに済むように、40 億ドルの資金提供を伺った。彼（トランプ）は、月曜日、サルマン王との電話会談の後、「王が、アメリカ当局への資金提供に合意すると確信している。」と通信社に語った。——

「敵の敵は味方だ」という言葉を、皆さんも聞いた事があるでしょう。サウジアラビアは、まさにこの状態です。彼らは、イランにおびえているのです。非常におびえているのです。それもそうでしょう。サウジアラビアは、スンニ派イスラムで、イランはシーア派イスラム。そしてサウジアラビアの中には、2 つの聖地があるのです。私は、「2 大聖地」と言わなかったのが分かりますか？「たった 2 つの」…イスラムの言葉によれば、「たった 2 つの聖地」メッカとメディナがあるのです。と言うと、皆さんは思うでしょう。「ちょっと待って？エルサレ

ムの岩のドームはどうしたんだ？」あれは、イスラムの聖地ではありません。「でも、彼らが言っていますよ？」彼らがそう言っている事は、知っています。あの場所で起こった、と彼らが示唆している事、彼らがほのめかしている全背景を、私は知っています。それらは偽りです。イスラムという宗教が偽りであるのと同じです。アッラーが偽りの神であるのと同じ、ムハンマドが偽りの預言者であるのと同じ、イスラムが偽りの宗教であるのと同じで、それは偽りです。コーランの中には、ただの一度も、一度たりとも、エルサレムが出て来ないをご存知ですか？全く出て来ません。もちろん、彼らも頑張っていますよ。

「ほら、言語であるアラブ語は、複雑な言葉で…」とか、  
「それは“遠くの地”と表現されているんだ。」とか。

へえ、そうなの？本当に？

エルサレムは、世界中のどの町とも違って、神が選び、所有者として、その御名を置かれた町です。

そして今、サウジアラビアは、イランを怯えていて、「敵の敵は友」という事で、彼らはイスラエルに駆け寄っています。イスラエルもまた、イランを恐れていますから。そこで彼らはどんどん近づいていて、友好的になり、味方同士になって来ています。

次にこれを聞いてください。火曜日のFoxNewsが報道しています。

——サウジアラビアの皇太子が、オバマのイラン核協議の酷評し、イスラエルの存在する権利を支持した。——

もしもし？皆さん？もう一回読んでみましょう。ちゃんと読めていなかったのかも知れません。

——サウジアラビアの皇太子、ムハンマド・ビン・サルマーンが、オバマのイラン核協議を酷評し、**イスラエルの存在する権利を支持した。**——

本当ですか？！ふざけた表現をして申し訳ないですが、まるで彼らは、朝起きて、こんな風に言っているようです。

「よし。エゼキエル書 38 章 13 節…、プログラム通りに進めないと…。これが今日の予定か。よし分かった！」すみません。ところで、さらに面白くなりますよ。記事の続きを読んでみましょう。さらに、ビン・サルマーンという言葉が引用されています。よく聞いてください。

——「ヒトラーは、イランの最高指導者がしようとしているような事はしなかった。ヒトラーは、ヨーロッパを征服しようとした。これも悪い事だ。しかし、最高指導者（アッヤトラー・ハーメネイ）は、世界を征服しようとしている。彼は、中東のヒトラーだ！」——

喘息の発作が出て来そうですよ。もっと、面白くなるのです。引用します。

——「彼は、世界は自分のものだと思っている。彼らは両方共、悪人だ。1920年代、1930年代は、少数の人以外、誰もヒトラーの事を危険だと思っていなかった。（よく聞いてください）**それが起こるまでは**。しかし、もう手遅れだったのだ。」——

実際に起こっている事が、皆に見えれば、どんなに良いだろう。しかし、それが起こるまで見えない。だから、それが起こった時には、もう手遅れなのです。

Al Arabiya が報道しているのは、サウジアラビア皇太子の父親、サルマーン王が、月曜日、ドナルド・トランプ大統領と交わした、地域近況に関する電話会談です。その中で王は、彼の息子であるサウジ皇太子モハメッド・ビン・サルマーンが、訪米中に手厚くもてなしを受けた事を、トランプに感謝し、そして、  
——「実りある会談と、2つの友好国の利益に繋がる重要な協議に調印した事に、祝辞を述べた。」——

Al Arabiya は続けて伝えています。

——王サルマーンは、中東の「平和プロセス」を前進させるには、国際的な働きかけが必要である事を強調し、同様に、「パレスチナ大義」と、パレスチナ人の正当な権利と、それから**エルサレム**を首都とした独立国家の設立に関して、王国の確固とした立場を強調した。——

ゼカリヤ 12 章です！これらが交差しているのが分かりますか？この繋がりが分かりますか？イザヤ 17 章のシリア、エゼキエル 38 章のロシア、イラン、ゼカリヤ 12 章イスラエル、エルサレムです。

——王はさらに、シリアの人達の切望を満たす為、シリア危機の解決策を見つける事の重要性を強調した。——

ところで、ここまで私達が見て来た事は全て、先週の間に関ったのです。6 日間の事です。復活祭の日曜日から、6 日の間です。6 日間ですよ。どれほどの事が起こったか、見て下さい。

そして、全ての事が起こった後に、あの緊急速報です。昨夜、ハワイ時間の今朝早く、ダマスカスの近くで、化学兵器攻撃が起こりました。他でもない病院の上に、です。きっと皆さんも私と同じだと思いますが、顔を背けたくなるような、恐ろしい映像でした。私には、直視出来ませんでした。小さな子供達のあのような姿は…。特に私の娘が、私の腕の中で死んでいくのを経験してからは、子供達のあんな姿は、私には見れません。彼らは、私と同じアラブ人です。

Haaretz によれば、80 人の男女それから子供達が死亡したとの事です。医療救済団体と、救命退院が報告しました。そして、ワシントンは、報告が確認されれば、直ちに国際的な報復を要請しました。たしか、大統領がツイートしていて、その一つに、「支払うべき代償がある。」と書かれていました。「支払うべき代償」です。いつも言うように、私は、衝撃的に伝えるつもりもないのですが、これは、非常に大きな意味のある事です。

この 12 時間の間に起きた展開の重要性は、どれだけ強調しても足りません。12 時間です（2018 年 4 月 8 日）。特に、ほんの 6 日間に起きた、状況のエスカレートの方、特にシリア、それと、このタイミング、少々疑ってしまいませんか？私だけですか？トランプが「撤退する」と発表した後？

皆さん、理解されている事を願いますが、今回のガスは、前回使われたサリンガスよりも、ずっと強力なものです。どうしてそれが重要なのか？これは、元ソビエト連邦のロシアが、ずっと使用しているのと同じ神経ガスだ、と信じられています。つまり、これには、いたるところにロシアの手があるという事です。それから、私だけですか？ウラジミール・プーチンは、現在、ものすごく自信を持っている。こんな風に言いたくはありませんが、他に言いようがありません。私達が目撃しているのは、これまでに無かった事です。

私達は、この預言アップデートを 12 年行っていますが、2006 年、聖書預言を教え始めなさいと、主が私を導いておられるのを感じたのです。これから、今までの人類史上も、今後も二度とないような時代に突入するから、と。それが 12 年前です。そしてほんの 5 年前でも、エゼキエル 38 章や、イザヤ 17 章や、ゼカリヤ 12 章について語る時、私は未来形で話していたのです。それが、毎週皆さんの前に立って、これらの事を現在形で語っている自分にびっくりするのです。これらが「起こる」というのではなく、もうすでに「起こり始めている」と感じます。そう思いませんか？「起こり始めている。」

次に私が言いたい事があります。誰かが何かを行い、それによって、世界が後戻りできないところまで押し出されるのは、時間の問題です。そして、その「何か」が、まさに起こったのかも知れない。また煽っているとか何とか、批判を受けるかも知れません。それでも出来る限り率直に、冷静に言いたいと思います。私は、非常に高い可能性として、これによって世は、もう後戻りできない地点を、越えてしまうのだと思います。理論的に考えてみてください。明日の朝の新聞の見出しに、「ロシアとイランが、心を入れ替えてシリアを撤退」なんて出ると思いますか？そんな事が起こると思いますか？ありません。

一つ、私は最近毎週のようにこれを言っていますが、産みの苦しみを考えてみてください。いったん始まれば、一時停止は出来ません。また、こんな馬鹿げた描写で申し訳ないですが、医者が来て、こんな風に言いますか？「今日は職員会議があって、その後昼食を御馳走する約束をしているんだ。戻ってきたら、陣痛を再開するから。」こんなこと、言いません。赤ん坊は生まれて来ます。それを、今まさに私達は目撃しているのです。イエスが来られます。

**イエスは来られます。**この事の重要さは、私達一人ひとりにとって何にも優るものです。クリスチャンであろうと、なかろうと。皆さんには、今日こうして集まっている時間に、またお付き合いいただきたいのですが、その前に、もう一つだけお伝えしたい事があります。私はここに来る前に、FoxNews などを観ていたのですが、この 2 時間、朝の 6 時から 8 時もしくは、5 時から 7 時の間、トランプ政権は、これにどう対処するかをすでに話し合っています。前回これが起こった時は、我々はトマホーク・ミサイルを発射しました。皆さん、念頭に置いておいてください。我々は、トマホークをシリアに発射しましたが、これは我々とシリアの間の問題ではなく、

我々と、ロシア、イランの間の問題です。皆さん、それは理解しておられますね？ちなみに、イランは、あの汚名高き核協議の事で、アメリカ合衆国を脅迫していますよ。トランプが言いましたから。「我々はそれを修正、または否定する。」ですが、これは修正不可能ですが、否定は可能で、彼らもそれを知っています。それが今の状況です。その上、ジョン・ボルトンとマイク・ポンペオの任命？これ見よがしに。これ見よがしに、この男達。特に、ジョン・ボルトン。彼は、クリスチャンではありませんが、ポンペオはクリスチャンですよ。彼は携挙を信じているのです。彼は私の仲間です。そしてこの2人は、熱烈な親イスラエ派で、彼らは、イスラエルを愛するのと同じくらい、イランに敵対しています。このタイミングもまた、不思議だと思いませんか？あの任命、あの発表が行われてから、まだ2週間も経っていませんよね？それに今、ロシアとイランが、応答している？厳密に言えば、反応している？私達に伝えられている、まさにその通りに？

では、次は何が起こるのか？これから2~3日の間に、何かが起こると私は信じています。もっと言えば、ほんの数時間の問題かもしれない。私には、これは、“止められない勢い”に見えます。勢いづき始めているものというのは、増し加わる勢いを止めるのは難しい、最悪の場合不可能です。車も、スピードが速ければ速いほど、勢いがついていますから、完全に停止するのに、長い距離を必要とします。現在起こっている、全ての地政学的勢いも、同じです。

ではまず、私達クリスチャンに関してお話しします。次の事について、考えてみてください。私達が話した、これらの5つの預言、イザヤ書17章、エゼキエル38章、ゼカリヤ書12章、ダニエル9:27、第一テサロニケ5:3。これらの預言のどれ一つとして、携挙の前に起こる必要はありません。言い方を変えてみましょう。これらの事は、携挙の前に起こる必要はないのです。これらは、携挙が起こる前に、“起こり始める”（キーワード）だけで良い。では、皆さんに率直にお聞きします。これらの事は、起こり始めていますか？イエスは、ルカの福音書21:28で言われました。ここは、皆さんもよくご存じだと思いますが、イエスは、私達主を知る者、主の来られるのを待ち望んでいる者に向けて、実に意味深なことを言っておられます。彼は言われました。

“これらの事が、**起こり始めたなら**、あなたはからだをまっすぐにし、頭を上げなさい。贖いが近づいているのです。”（ルカ21:28）

もし、あなたが意気消沈していて、主の来られるのを待ち望んでいるなら、使徒パウロが、テサロニケ人への手紙4章で、携挙について触れながら書いている通り、私もあなたを励ましたいと思います。

キリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に生き残っている私達が、たちまち彼らと一緒に雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。そうして、彼はこのように言っています。

“**こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。**”（第一テサロニケ4:18）

私はたくさんの人と話をしましたが、多くの方が、疲れ果てた、失望した、と言います。私もそうですが、私達は、主の来られるのを待ち望み、切望しています。私達が思ったほどすぐには、携挙が起こらなかった。そこで私は、皆さんを励ましたいと思います。

主の来られるのが、近づいています。それがいつなのか、どういう時なのかは、私達には分かりません。しかし、私達に分かっている事があります。それは、非常に近い。

イエスが言われました。「人の子は思いがけない時に来る。」（マタイ24:44）私はいつもこれを使います。もし、私の理解が正しければ、イエスはこのように言っておられると思うのです。

「あなたが、『こんな時に来ないだろう』と、考えているような時に、私は行く。」

言い換えれば、私の思考回路の中で、こんな風に考えるのです。まずこれは不可能ですよ？それでも、

「今日の午後2時から3時の間に主が来るとは、あまり期待していないな。もちろん来てくれれば、素晴らしい。神を賛美しますよ？でも、今日の午後2時から3時の間に来られるとは、思わないな。」

すると、イエスは言われるのです。

「おお。その時間に、私が行かないと思っているのか？なら、その時に、私は行こう。」



つまり、これには大きな希望、大きな慰めがついて来るのです。こんな風に見てください。もし、主がいつでも、どの日でも、何時でも戻って来られるとすれば、私達は、どのように生きるべきですか？これは、「祝福された希望」と呼ばれていますが、私は、これは「唯一の望み」だと思えます。しかも、ただ唯一の望みであるだけでなく、唯一これだけが…誇張でなく、前にも言ったと思えますが、もし、この希望、携挙がいつでも起こり得る、という希望が無ければ、私は文字通り、発狂しています。この世の、悪くなっていく様を目にするたびに。さらに日々、時間ごとに、どんどん悪くなって行くように思えます。私はもう耐えられないのです。シリアのこの子供達が死んでいくのを、もう見ていられないのです。もう耐えられない。イエスに来てほしいのです。

これがあるから、私は夜眠る事が出来、これがあるから、私は朝起き上がり、一日を乗り越える事が出来るのです。今日が、その日かもしれない、と分かっているからです。その時は近いですよ。どれくらい近いかな？すぐですよ。

なら、あと5年先だとすれば？良いですか？私達は、その日まで従事していなさいと言われていています。今しているように。それから神は、私達にその為に必要な能力や力を与える事なく、何かをするように命じられる事はありません。どういう意味か？神は、主の来られる時まで、従事していなさい、と私達に命じられました。神の事にいそしんでいなさいと。彼は、その事に関して、私達がそれを行えるように、能力を与え、力を与えてくださいます。それを乗り越えられるように。もし主が来られるまでに、まだ5年かかったとしても、私には、神からの約束があるのです。主が来られるまでの間、私が経験する全ての苦しみ、困難、全ての試練を乗り越えられるだけの能力と力を、神が与えて下さる。

**私が従事する為に、彼は、御霊の力によって、私をカづけてくださいます。主が私の前に備えて下さる、全ての機会を利用し、掴めるように。**

ですから、クリスチャンとして私達は、からだをまっすぐにし、頭を上げるのです。イエスが戸口まで来ておられますから。さらに言えば、彼の手がドアノブにかけられています。それほど近いのです。

では次に、別の事についてお話ししましょう。どうかよく聞いてください。言いたくありませんが、いくらかのクリスチャン、それからクリスチャンでない方は確実に、目を覚まさない限りなりません。

はっきり言いますね？ -そうですよ。

きつい言い方ですね？ -きつく言わなければなりません。目を覚ましてください。あなたは霊的に眠っています。あなたの人生で鳴り響いている目覚まし時計を、止めていますね？

復活の日曜日の事を考えていたのですが、彼らはオリーブ山に行って、園に行き、イエスは弟子たちに祈っているようにと言われました。その時、イエスはこんな風に言われたのです。

「目を覚まして、祈り続けなさい。」（マルコ 14:38）ところが、彼が祈って戻って来た時、どうでしたか？彼らは眠っていたのです。私が面白いと思ったのは、特にペテロについてです。もし彼が目を覚まして祈っていたなら、彼は、主を否定したりしなかったのではないかな？もちろん、彼が否定する事は、主はご存知でしたよ？でも、それが理由ではないですか？

私はローマ書 13章で使徒パウロが書いている事について考えていました。彼は、例のごとく、まっすぐに言うべき事を、告げているのです。彼は、このように言いました。

**“あなた方は、今がどのような時か知っているのですから、このように行いなさい。あなた方が眠りから覚めるべき時がもう来ています。”**

——なぜ？

**“と言うのは、私たちが信じた頃よりも、今は、救いが私達にとって近づいているからです。夜はふけて、昼が近づきました。ですから私たちは、やみのわざを打ち捨てて、”**

——それを手放しなさい！

——もう、そんな事をしている時間はありません！！

**“光の武具を着けようではありませんか。遊興、酩酊、淫乱、好色、争い、ねたみの生活ではなく、”**

——起きなさい！

**“昼間らしい、正しい生き方をしようではありませんか。主イエス・キリストを着なさい。肉の欲のために心を用いてはいけません。” (ローマ 13:11-14)**

目を覚ます時です。もしかしたら、今日、ここに居る人か、もしくはインターネットでこれを観ている人への言葉かも知れません。これは、ウェイクアップコールですよ。目覚ましは、もう鳴らないかもしれません。その時はもう、目覚ましを再び止める事も出来ません。

あと数分お付き合いください。皆さんの忍耐に感謝します。残りの時間を使って、これまでに一度も主イエス・キリストの御名を呼び求めて、救われた事のない人にお話しします。もし、あなたが今、これをインターネットで観ているなら、それは偶然ではありませんよ？ あなたは変だと思っているかも知れません。「スクリーンに映っているこの男は誰なんだ？」と思っているかも知れません。それも分かりますよ？あなたがこの動画を見つけたのには、理由があるのです。特に、この時点で。

主が、あなたに語っておられるのです。今日、ここに座っておられる、あなたにもです。憶測ではありませんよ？もし、今日、私が牧らせていただいているこの教会の中に、**今まで一度も主の御名を呼び求めて、救われた事のない人が居るなら、お願いですから、今日、それをして下さい。あなたの人生で、最も重要な決断を、先延ばしにしないでください。永遠のいのちに関わる事です。**これは、あなたが人生で下だす決断の中で、最も重要な決断、イエス・キリストに関してです。

先日、朝のデボーションの時間に、娘と話していたのです。どれほど多くの善人が地獄にいて、どれほど多くの悪人が天国に居るのか。言っておきますが、私は列の先頭ですよ。それによって、天国、地獄を決めるではありませんから。ちなみに、永遠ですよ。フランシス法王の「地獄は永遠ではない。」発言とは逆ですが。もしくは、「地獄はない。」と言っていました。いいえ。地獄は存在します。地獄が無ければ、天国も存在しませんよ。天国が無ければ、地獄もない。我々は、どこかで永遠に過ごすのです。だから、イエスは来られたのです。

**“神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして(地獄で)滅びる事なく、永遠のいのちを(天国で)もつためである。” (ヨハネ 3:16)**

ところで、神の御心は、誰一人として滅ばない事です。そうでなく、全ての人がイエス・キリストを知り救われる事が、神の御心です。地獄は、人間のために創られたものではありませんよ？地獄は、悪魔とその悪霊のために創られたのです。ですから、神は、誰一人として、地獄へ送った事はありません。ある人が、上手く表現していましたが、実に適切だと思います。地獄へ行く人は、キリストの死んでよみがえった体を踏みつけて行くのです。神は、誰の事も地獄へは送られません。

ところで、それが福音です。それが使徒パウロが、第一コリント 15:1-4 で説明している福音です。彼は、福音を最も重要な事だと言っているのです。それは、こうです。

**“キリストは、聖書の示す通りに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書の示す通りに、3日目によみがえられたこと。”**

これが福音です。福音の実際の意味をご存知ですか？文字通りに、単に何を意味しているか？「良い知らせ」です。

**あなたの負債は、完済された。あなたは自由だ！良い知らせだ！それが福音の意味ですよ。**

何の負債か？あなたには、支払うべき罪があるのです。それは死刑ですよ。

しかし、良い知らせは、イエス・キリストが、その罪をあなたの為に、あなたの代わりに十字架にかかって、それを支払ってくださったのです。彼は十字架にかかって死に、葬られ、3日目によみがえられた。それが良い知らせです。これこそが良い知らせですよ。それが、福音です。

次に、福音にどう応えて救われるか、これは子どもにでも分かる説明です。どうかお願いですから、ここで観るのを止めないでください。どうかよく聞いてください。今週、神があなたの前に誰かを送り込まれるかも知れませんよ？今このような時の為に。あなたにも、イエス・キリストの救いの良い知らせ、あなたの中にある希望

について、とてもシンプルに伝える事が出来るのです。これは非常にシンプルで、「救いの ABC」で知られています。



### A=Admit/認める、Acknowledge/認識する

自分が罪びとである事を、認める。もしくは、自分は罪びとであり、救い主が必要であると認める。ところで、これが悔い改めですよ。悔い改めとは、単に考え方を变えるという事ですから。180 度変えるのです。あなたが考え方を变えれば、次に神があなたの心を変えてくださいます。そしてその変化、悔い改めとは、「私は完璧で義、聖なる神に対して、罪を犯した。」  
「私は、神の完璧な義の基準から漏れてしまった。だから、私には救い主が必要なんだ。」  
「私が罪を犯したから。」  
ローマ 3:10 にはこう書いてある通りです。

“「義人はいない。ひとりもない。」 (ローマ 3:10)

今週の水曜は、George Kellie 兄の昇天式を行いますが、私が昇天式を行う時に、いつも言うのは、「恐らく、あなたは良い人だと言えるかも知れません。きっと良い人なのでしょう。確かに、優しい心をお持ちでしょう。しかし問題は、あなたの良さでは足りないのです。あなたは、神の榮譽を受けられない。」ローマ 3:23 が、そう告げています。あなたが、どれだけ良い人でも、

“すべての人は、罪を犯したので、神からの榮譽を受けることが出来ず、” (ローマ 3:23)

私達は皆、アダムの後、罪人として生まれました。だから私達は、神の御国を見るためには、新しく生まれなければならないのです。ローマ書 6:23 は私の大好きな聖句です。ここには、悪い知らせと良い知らせがセットで入っていますから。しかも、悪い知らせが先に書かれています。ここに真実があるのです。十戒の目的も同じです。あれは非常に悪い知らせです。なぜかと言えば、十戒はあなたに、あなたの真実の状態を見せる鏡ですから。あなたは、罪びとだ。あなたは、この十の戒めを全部破った。私は、その十に含まれていない事も、犯しましたよ。私は罪を犯しました。私は神の法を犯しました。そして死刑宣告を受けたのです。それが悪い知らせです。

“罪から来る報酬は死です。” (ローマ 6:23)

報酬です。それが、私達が得たものです。これが支払いです。これが刑罰、死刑です。これが悪い知らせです。先に来ました。次に良い知らせです。

“しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。” (ローマ 6:23)

エペソ人への手紙 2:8-9 に、パウロの有名な言葉があります。

“あなた方は、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身からでたことではなく、神からの賜物です。行いによるものではありません。誰もほこることのないためです。” (エペソ 2:8-9)

想像できますか？もし、私達の行いで天国に行けたとして、あちらに行った時、それを自慢する？それでは、天国ではありませんよ。きっとそれは、反対側だと思います。

「君は何をしてここに来たんだい？」「ああ！見せてやりたかったね」

### **B=Believe/信じる**

イエス・キリストが主である事、それからローマ 10:9-10 によれば、イエス・キリストが、死からよみがえったと心で信じる。

**“もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。”** (ローマ 10: 9-10)

「まあ！それでは簡単すぎますよ！」そうです。それが問題なんですか？ 私達は、福音を複雑にしていませんか？ 私達は、子どもにでも分かるシンプルなイエス・キリストの福音に、余計なものを加えていませんか？

あれをしなければならない！これをしなければならない！それもこれもしなければならない！

いいえ。そのままのあなたで行くのです。

### **C=Call/呼び求める、Confess/告白する**

最後に、主の御名を呼び求める。もしくはこれもローマ 10:9-10 で、口で告白する。

ローマ書にはさらにこうあります

**“なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で、神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。”** (ローマ 10: 9-10)

そして最後に、これで契約成立です。

**“「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる」”** (ローマ 10:13)

最後にもう一つ、言っても良いですか？呼び求める者は、誰でも**“私達”**になるのです。アーメン！

ピンと来ましたね？これ、私一人で考えたんです。というより、絶対に聖霊ですけど。呼び求める者は、誰でも

“私達”になる！“私達”になってください。これで皆さんも、人に言えるじゃないですか。「今日は教会で、牧師はどんな話をしたの？」「ああ！『私達になれ！』とずっと言っていたよ。」

祈って終わりましょう。皆さんの忍耐に感謝します。

天のお父様。あなたの民のあわれみと忍耐に感謝します。何よりも主よ。聖書預言に感謝します。あなたはそれが起こる前に、何が起こるかを知らせてくださいました。だから、それが起こり始めた時、信者達は頭を上にあげ、未信者達は信じます。主よ。私達が、世を見回し、特にシリアで起こった事、また今日の中東を見ると、まさに、あなたが言われた通りの事が、起こっています。主よ。あなたは、ただ私達が知る為に、預言を聖書に加えられたのではありません。あなたが聖書に預言を加えられたのは、私達が信じ、備えるためです。ですから主よ。もし今日、この教会の中に、もしくはインターネットで観ている人の中に、あなたの御名を一度も呼び求めた事の無い人が居るなら、今日が、彼らの救いの日になりますように。彼らが一日たりとも、一時間たりとも、先延ばしにする事はありませんように。主よ、感謝します。

最後に、信者の為に、主よ。どうか、あなたにしか出来ない形で、慰めてください。そして同時に、どうか私達が互いに励まし合えるように、助けてください。私達には、励みが必要です。主よ。私達は、最後まで走りぬきたいのです。私達は、競争を走りたいのです。使徒パウロが言ったように、私達の先に待ち構えているもの、私達、あなたの現れを待っている者には、全員に義の栄冠が与えられます。主よ。待ち遠しいです。栄冠が楽しみなのでなく、その栄冠を、あなたの御座の前で、あなたの足元に投げ出すのが楽しみです。主よ。早く来てください。マラナタ！イエスの御名によって。アーメン。

このメッセージはカルバリーチャペル カネオへの JD ファラグ  
牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。リアルタイムで知りたい方は、Calvary Chapel Kaneohe (英語)、「DIVINE US」(日本語)を検索してください。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録する必要を感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りよくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」  
へブル4:7

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリーチャペルカネオへ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>  
Calvary Chapel Kaneohe  
47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii  
訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>  
筆記 by まい